注意喚起文　v1.2

11 月 8 日に発生した事故でツリーラン後に約 20m 落下して死亡という重大事故が発生しました。
回収時に機材を確認するとバックル類はすべて装着されており、今までのレッグベルト付け忘れ問題とは異なる謎めいた点を踏まえて調査を行いました。事故原因は特定されていませんが考えられる原因と対策をお伝えいたします。
下記内容を注意喚起いたしますので、スクール、クラブ、エリア管理者は注意喚起内容を幅広くお伝え頂き安全管理徹底のほど、宜しくお願いいたします。

※新たなレッグベルト付け忘れ問題の可能性

今回発生した事故のハーネスには 2 点の特徴があります。一つはショルダーベルトを支えるストラップが付いていない。もう一つはゲットアップシステムとなります。同型モデルのハーネスによる検証を行った結果、新たな落下問題に影響する起因を発見しました。

【詳細内容】

片側のチェストベルトバックルを固定したままにしてハーネスを身体に装着し、反対側のバックルを固定する。その後、フロントコンテナ、ポッドスカート部を装着する。いわゆる、ゲットアップシステムの股ベルトは、股を通さずに固定が可能となります。そのまま飛ぶとレッグベルト付け忘れと同様に落下することになります。また、ショルダーベルトストラップが無い場合には、逆さま状態になるとショルダーベルトから肩が外れて落下するリスクがあります。

【事故者の動作で考えられること】

1）テイクオフにおいてグライダーバッグからハーネスにキャノピーを収納した状態で取りだす。
2）キャノピーを広げる為にハーネスのチェストバックル片側のみを外してキャノピーを取り出す。
3）キャノピーを広げてハーネスを装着する時に、通常だと両側のチェストバックルを外した状態で身体はハーネスを背負い、股の間からゲットアップシステムのベルトを引き上げて両側のバックルを固定するが、事故者は片側のみしかバックルを外していない状態でハーネスを背負って股にベルトを通さずに、固定されていないバックルのみを装着して完了とみなす。結果的に**股にはベルトが通されずにバックルは装着可能**となる。

【対策】

1）ショルダーベルトストラップの固定
2）クロスチェックを徹底（**ベルトを必ず触る。引っ張ることが重要**）股ベルトがしっかりと**股を通しているかが最も重要な確認**となります。

↓正常にチェストバックルを装着した場合



↓股ベルトを通していない状態



↓離陸するとずり落ちます

